

1-【1】資料・情報の提供（貸出し・閲覧・予約・レファレンス）

令和5年度第2回オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会



概要

- 一般図書は、国内年間出版点数の5割以上を収集、雑誌や新聞は、2,000タイトル以上の収集を目指します。
- 電子図書館のサービスは、コンテンツの充実と視聴覚資料やデータベース、デジタル化した資料などの電子媒体の資料の充実を図ります。
- ウェブ・サイトやSNSの運用、チラシ配布、出前図書館のほか、動画やマンガなどを使って分かりやすいPR活動を実施します。

サービス指標

リクエストの受付件数
電子図書館の閲覧回数(電子雑誌を含む)

	R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標
リクエストの受付件数	1,591件	4,000件
電子図書館の閲覧回数(電子雑誌を含む)	26,940回	10万回

主な取組 (R5. 4/1~R5. 8/31)

①資料の収集・提供

- ・新たな閲覧型電子書籍サービス「KinoDen」を7月に導入した。**新規**
- ・県の「外国人材確保・活躍戦略」に関連した資料(紙・電子)の重点的な収集を開始した。**新規**
- ・図書等の購入は、令和4年度と同水準で推移。

※数値の詳細は「サービス指標及び主な実績値(資料1)」及び各サービスの進捗管理シートに掲載。

②貸出し・予約・リクエスト

- ・全てのセルフ貸出機をマイナンバーカード及びスマートフォン(オーテピアアプリ)対応に改修。

③展示

※各サービスの進捗管理シートに掲載。

④利用ガイド

※各サービスの進捗管理シートに掲載。

⑤レファレンス

- ・図書館の広報紙や行政向けメルマガ等に「調べもの案内」について具体例を掲載。調べもの案内サービスの利用を促進した。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

①資料の収集・提供

- **7月に新たな閲覧型電子書籍サービス「KinoDen」を導入。**7/23に開催した「オーテピアまつり」(開館5周年事業)の会場に体験ブースを設け、他の電子書籍サービスと併せて周知を行った。
- GIGAスクール端末の活用と電子図書館の普及のため、市町村教育委員会等に対して高知県電子図書館のサービス周知に取り組んだ結果、郡部の小中学校や私立高校での利用登録が進んでいる。
 - 収集した資料について、効果的な配架場所の検討が必要。
 - 電子書籍サービスの有用性・利便性を高めていくため、資料費の確保が必要。
- リサイクル図書の配布
 - 市: NPO法人に絵本、刑務所に一般図書を配布。
 - 県: 選定支援用児童図書を児童養護施設等に配布。
 - 年間出版点数の5割以上収集の目標達成のためには、資料費の継続的な確保が必要。
 - 県: 除籍後の資料等の有効活用のため、支援用児童図書の配布先の拡充が必要。

②貸出し・予約・リクエスト

- 館内全てのセルフ貸出機でマイナンバーカードやスマートフォン(オーテピアアプリ)による貸出が可能となり、利便性が向上した。

③展示

※各サービスの進捗管理シートに掲載。

④利用ガイド

※各サービスの進捗管理シートに掲載。



電子書籍「KinoDen」体験ブース

今後の取組

- ① 多様な資料の収集と提供を充実させる。
電子図書館は、タイトルの充実を図るとともに、各媒体の特徴も踏まえて、PRを行う。
引き続き市町村の教育委員会等に対して、学校の教職員や児童・生徒の電子図書館への一括登録を働きかける。
- ③ ※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ④ ※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ⑤ 調べもの案内サービスについてPRを継続する。
レファレンス協同データベースへの情報提供の促進

特記事項など

1-【2】情報リテラシーの向上支援

概要 ○実際に資料や情報を参照することができる図書館のメリットと司書の専門性を生かし、情報社会において求められる情報リテラシーの習得や向上を支援します。

サービス指標	R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標
パスファインダーの提供数	17種	65種
データベースの利用件数	1,220件	5,000件

主な取組 (R5. 4/1～R5. 8/31)

- ①図書館活用講座の実施
 - ・5月にオーテピアアプリの使い方を説明する情報リテラシー初級講座を実施した。
 - ・令和5年度高知県・高知市新規採用職員、土佐リハビリテーションカレッジ学生、高知市防災福祉部会（市職員、市社協職員）、中央高校看護学科生徒、山田高校グローバル探究科生徒など、団体向けの図書館活用講座を多数実施した。
- ②利用ガイド（パスファインダー、ガイドブック等）の作成・提供
 - ・パスファインダーは計17種を提供中
- ③連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施
 - ・学校等の図書館見学や職場体験の際に、情報リテラシーに関する説明を行ったほか、連携事業や出前図書館等で図書館の活用方法を説明した。
 - 例：令和5年度子育て講演会（高知県心の教育センター主催）

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①図書館活用講座の実施
 - 情報リテラシー初級講座では、アプリを自分では使い始めることができない方、機能を知らない方へのアプリの導入支援ができた。
 - 団体向けに図書館活用講座を行うことで、その団体又は受講者が必要とする情報に特化した説明ができた。
 - 高校を対象とした講座では、学科に応じたデータベースの紹介ができた。
 - 講座のテーマや受講者層に合わせて、実施方法等を検討していく必要がある。
- ②利用ガイド（パスファインダー、ガイドブック等）の作成・提供
 - R8年度目標（65種）に向け、提供数をより一層増やす必要がある。
 - 動画については、職員の作成スキルを高めていく必要がある。
- ③連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施
 - 図書館見学や職場体験等で、情報資源へのアプローチやハンドリング能力、情報の評価能力について学ぶ機会を提供できている。
 - 各サービスの連携事業や出前図書館に加え、オーテピアの貸室等で行われるイベント等においても、図書館の活用方法についてのPRができています。

今後の取組

- ①情報リテラシー講座として、以下の講座を実施。
 - ・初級講座（11/25）
 - ・中級講座（2/10）
 - ・上級講座（9/30）※主として中高生向け
 - ・その他、データベース活用講座を実施する。
- ②パスファインダーについては、作成のネックとなっている部分を確認し、対応策を立てる。
 - ・情報リテラシー講座の動画配信を進める。
- ③各サービス担当部署において、引き続き連携事業の中で図書館活用講座等を行い、利用者の情報リテラシーの向上に取り組む。



アプリの使い方を説明する初級講座



図書館フル活用講座の動画

特記事項など

2-【1】ビジネス支援サービス

概要

- 経済や経営、就業、起業、転職などの際の課題解決に役立つ6～7万冊の書籍、専門誌、データベース等のビジネスに関連する資料・情報を提供します。
- 気軽に相談できるビジネス支援デスクを設置し、担当司書が、情報収集や調べものをサポートします。
- ビジネスに役立つ講座や相談会等を専門機関等と連携して開催するとともに、図書館活用講座等を実施します。

サービス指標	R5年度 (R5.8/31現在)	R8年度目標
ビジネス・農業・産業支援分野でのレファレンス件数	523件	2,400件

主な取組 (R5.4/1～R5.8/31)

- ① 図書の収集・提供**
 - ・分館・分室でビジネス分野の本を展示できるように、13のテーマを設定してオーテピアの資料を提供。**新規**
 - ・高知銀行やBASE CAMP IN KOCHIなどへの団体貸出を実施。
 - ・スペース内の常設展示を期間展示に変更。関係機関と連携した展示を実施。
 - ・ニーズの高い資料の購入、レファレンス等を契機とする未所蔵資料の収集などを実施。
- ② アウトリーチ・サービスの実施**
 - ・産業、農業、移住等の担当課を訪問し、レファレンス・サービスやデータベースの活用について説明。
- ③ ビジネス支援サービス活用講座の実施**
 - ・8/4「令和5年度商工会職員集合研修」において、高知県商工会連合会の職員に活用講座を実施。**新規**
- ④ 他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施**
 - ・まちかど就農相談 (毎月)
 - ・若者サポートステーション進路相談会 (毎月)
 - ・農業関連イベント
 - ・他機関が主催するセミナー等で出前図書館の実施 (館外：2件、館内：3件)

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ① 図書の収集・提供**
 - 分館・分室での資料展示により、地域の利用者がオーテピアの資料を手に入る機会を増やし、幅広い利用者に情報提供ができた。月300冊を超える利用があり、好評を得ている。
 - 団体貸出を通して、連携強化と専門書の活用を促すことができた。
 - スペース内に期間展示できる場所を設けたことで、関係機関との連携展示を柔軟に実施できるようになり、連携強化と資料の活用促進につながった。
- ② アウトリーチ・サービスの実施**
 - 担当課への訪問により、高知県中小企業団体中央会の機関紙への当館紹介記事の掲載 (取材済、R5.8末時点では未掲載) やレファレンスなどにつながった。
 - 図書館サービスの効果的なPR方法を検討する必要がある。また、企業や団体に対する効果的なアプローチの方法について検討が必要。
- ③ ビジネス支援サービス活用講座の実施**
 - 商工会連合会などの支援機関に、商用データベースなどのPRができた。
- ④ 他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施**
 - 各種相談会を通して、主催者や参加者に図書館の活用についてPRできた。
 - 相談会等への新たな参加者を呼び込むためのPRが必要。また、相談会の参加者への貸出など、参加者の図書館利用につなげる方法について、主催者と相談しながら検討する必要がある。



市地域活性推進課との連携図書展示



出前図書館「企業のための職場環境づくりセミナー」



まちかど就農相談での図書展示

今後の取組

- ① 利用者ニーズの把握と効果的なPR方法について検討。
- ② ものメッセなどのイベント時にレファレンスやデータベースなどについてPRする。
- ③ まちづくりトークcaféで館内ツアー、ワークショップを実施。(9/12)
 - ・土佐MBA専科「図書館をビジネスに生かす」を実施。(2/2)
 - ・土佐経営塾参加者へのPR動画の提供。
- ④ 定例事業での図書展示等は、主催者と相談しながら参加者のニーズに合わせた本を展示する。
 - ・まちかど就農相談 (毎月) の、より効果的なPR方法について検討する。
 - ・若者サポートステーション進路相談会 (毎月) を継続して開催。

主な連携先

高知県中小企業団体中央会、高知県商工会連合会、こうち若者サポートステーション、県農業担い手支援課、市地域活性推進課、市産業政策課、市観光魅力創造課、放送大学高知学習センター、高知銀行、ジョブカフェこうち

特記事項など

- ・R6年度にデジタルデザインコンテストを開催予定 (隔年)。
- ・活用事例まんがNo. 5の作成を検討中。

2-【2】健康・安心・防災情報サービス

概要

- 健康・福祉・防災等の分野の課題解決につながる資料・情報を提供・発信するとともに、図書館の活用方法を積極的に周知します。
- 専門機関等との連携によるイベントの開催、チラシ・パンフレットの配布や企画展示を行うことにより、利用者に情報を提供します。

サービス指標

健康・安心・防災情報分野でのレファレンス件数

R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標(見直し前)
529件	2,000件(1,600件)

主な取組 (R5. 4/1～R5. 8/31)

① 図書の収集・提供

- ・専門機関と連携し、発達障害、難病、防犯等をテーマにした図書展示を実施。
- ・図書展示「医療・介護従事者等応援フェア」を長期で実施(5-10月)。 **新規**
- ・分館・分室で実施している資料活用展示の展示テーマを追加し、健康・安心・防災分野のテーマは計20種となった。
- ・利用者がパスファインダー等をより手に取りやすくなるように置き場所を変更。

② 他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施

- ・**第38回医学情報サービス研究大会(MIS)で取組事例を発表。** **新規**
- ・「ひきこもりピア相談会」を開催。
- ・高知リハビリテーション専門職大学、高知医療センター等と共催イベントを実施。
- ・高知中央高校看護科等の学生を対象に図書館活用講座やデータベース活用講座を実施。

③ アウトリーチ・サービスの実施

- ・市地域福祉活動推進計画の防災福祉部会勉強会に高知市全域サービス担当と共に参加し、図書館活用講座とサービス紹介を実施。 **新規**

④ 広報支援

- ・連携展示やパネル展を通して、専門機関のイベントや啓発事業等の周知に協力。
- ・市地域共生社会推進課、市社会福祉協議会等と連携し、「地域共生社会推進イベント」を実施。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

① 図書の収集・提供

- 展示をきっかけに、医療関係の利用者から「本当にありがたかった。医療・看護関係の友人たちも心強かったと思う」などの声があり、サービスについてもPRできた。
- 展示本を連携先にも選んでもらうことで、より必要とされる情報を提供できた。
- 分館・分室での資料展示テーマを増やすことで、今まで提供できていなかった情報を提供できた。絶えず依頼があり、分館・分室からの月報にも好評の声が寄せられた。
- パスファインダーの種類を増やすなど、利用促進のためのさらなる工夫が必要。
- 最新情報を提供するため、ブックリストの更新が必要。

② 他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施

- **MISでは県内外の参加者から「様々なテーマでいろいろな団体と連携しているのがすばらしい」といったお褒めの言葉を多数いただいた。**
- 相談会の開催により、支援を必要とする利用者や相談窓口をつなぐことができた。
- 文献検索の講座では、引率の教職員から「今後も引き続き講座をお願いしたい」との声があった。
- 共催イベント実施時にサービスPRの時間を確保し、図書館の活用方法を周知できた。

③ アウトリーチ・サービスの実施

- 市の所属をまたがる横断的な会に参加することで、様々な関係部署に対して、図書館の活用、サービス及び担当を一括で紹介できた。
- バリアフリーサービスやティーンズ・サービスなど他のサービスとの情報共有が必要。

④ 広報支援

- 県や市、専門機関の取組について広報できた。
- 専門機関と共に展示資料を選定することで、利用者に信頼性の高い情報を提供できた。
- 専門機関から、広報活動のために連携図書展示を実施したいという要請が多数あった。



図書展示「医療・介護従事者等応援フェア」



学生向け活用講座



イベントでの出前図書館

今後の取組

- ①・ブックリスト等により、県民・市民、専門機関、行政の各所属及び機関に対する図書館活用の周知を継続的に実施。
・引き続き、利用者の情報ニーズを把握し、収集した資料の活用を促進。
- ②・専門機関と連携して事業を実施する。
・9/3、12/3、3/3「ひきこもりピア相談会」
・10/7、10/17、10/27「がん相談会2023 in オーテピア」など。
- ③・バリアフリーサービス担当と協力し、「高知ふくし機器展」(11/18-19)での出前図書館を実施。
- ④・広報支援を通して、専門機関等との関係を深めることで、利用者への専門的な情報提供につなげていく。

主な連携先

県障害福祉課、県発達障害者支援センター、市地域共生社会推進課、市健康増進課、高知市社会福祉協議会、土佐リハビリテーションカレッジ、高知医療センター、高知大学医学部附属病院、高知産業保健総合支援センター

特記事項など

- ・来館困難な県民・市民の音読活動サポート動画「いきいき音読倶楽部」の広報物を市防災福祉部会や図書展示等で紹介。

2-【3】行政支援サービス

概要

- 高知県庁と高知市役所の職員が、行政運営や政策立案などを行う際の情報収集、調べものを図書館司書がサポートします。
- 数多くの方が来館する強みを生かし、各組織・機関と連携した講座・イベントの開催やパンフレット等の配布を行い、行政の政策・施策の推進を支援します。

サービス指標	R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標
図書館と連携した課題解決支援のための図書館サービス説明等の実施	15回	56回

主な取組 (R5. 4/1～R5. 8/31)

※個別サービスでの取組は各サービスのシートに掲載

- ①各組織・機関への貸出し
 - ・高知市立学校教職員向け（高校は除く）の団体貸出の運用を開始。5月の校長会にて周知。
- ②図書館活用講座等の実施
 - ・こうち人づくり広域連合及び県人事課主催の新採研修に、活用講座の動画を提供。
 - ・こうち人づくり広域連合「政策研究共同研修」、高知市「防災福祉部会」、高知県心の教育センター「子育て講演会」などで活用講座を実施。
- ③図書館活用事例の広報
 - ・行政各課向けサービスやおすすめ資料、レファレンス、広報協力などに関する図書館活用事例をメルマガ等で周知。
- ④各組織・機関と連携した取組の実施
 - ・産業、農業、移住等の担当課を訪問し、レファレンスやデータベースの活用について説明。
 - ・ビジネス支援、健康・安心・防災情報、多文化の各サービスにおいて、関係機関と連携して定期相談会や連携展示等を実施。
 - ・**県市広報紙の特集記事に合わせて関連本を展示。** 新規

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①各組織・機関への貸出し
 - 高知市立学校教職員向けの団体貸出の開始に伴い、小中学校3校の利用があった。**学校教職員の業務や授業研究に役立つ資料の提供**につながった。
 - 業務の参考にする本を貸し出す学校教職員向けの団体貸出と、子どもたちが利用する本の学校向け団体貸出との違いを分かりやすく説明する必要がある。
- ②図書館活用講座等の実施
 - 研修後のアンケートで、「業務目的でも図書館を利用できることを初めて知った。今後は利用したい」という声が多かった。
 - 各サービスでの取組により、サービス担当者が関係部署とつながりを持つことで、図書館の活用を促進する環境が整いつつある。
- ③図書館活用事例の広報
 - メルマガを月2回に分けて発行することにより、月1回の発行のときよりも、サービスや活用事例などが効果的かつ充実した内容でPRできた。
- ④各組織・機関と連携した取組の実施
 - 各課の訪問により、レファレンスや利用登録、連携展示が増加した。
 - 連携をきっかけに、レファレンスやブックリストの協力作成につながった。
 - 各組織・機関との相互理解が深まったことで、ニーズの高い情報が正確に提供できるようになり、課題解決に貢献した。
 - **広報紙の特集に合わせて展示を行うことで、県市が力を入れている施策について適切なタイミングで情報提供できた。**
 - 今後も継続的な取組ができるよう、各組織・機関との連携を深める必要がある。
 - 定期相談会など、連携事業のさらなるPRが必要。



政策研究共同研修



地域共生社会推進イベント(健康安心)



県市広報紙の特集記事関連本の展示

今後の取組

- ①・利用の多い所属については、ニーズの高い資料を把握し、選書等に活かす。利用の少ない所属にはPRを継続的に実施する。
- ②・イベントの実施や展示等の取組を通じて、関係組織や機関との連携を深めていく。
- ④・広報紙の特集に合わせた展示の継続実施。
・相談会の効果的なPR方法について検討する。

主な連携先

県：人事課、農業担い手支援課、新規就農相談センター、計画推進課、雇用労働政策課、住宅課、精神保健福祉センター、地域福祉政策課、高知県警察本部

市：健康増進課、地域コミュニティ推進課、地域共生社会推進課、観光魅力創造課、地域活性推進課、総務課

その他：こうち人づくり広域連合

特記事項など

・活用事例まんがNo. 5作成を検討中

2-【4】高知県関係資料の収集・保存・提供

概要

- 高知県に關係する資料を網羅的に収集し、各方面の利用に供するとともに、資料を生かし、県民・市民、観光客、移住希望者等に向けて情報発信します。
- 貴重資料をはじめとするニーズの高い資料のデジタル化を進め、ウェブ・サイトで公開します。

サービス指標

高知県関連のレファレンス件数

R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標
1,312件 (事項: 536、所蔵: 776)	4,400件

主な取組 (R5. 4/1~R5. 8/31)

- ①高知県にとって必要な資料の収集**
 - ・「こうちミュージアムネットワーク」地域資料部会と連携して、県内資料の保存状況等の情報を共有。
- ②図書以外の資料の収集**
 - ・高知資料コーナーにおいて、県内市町村の紹介展示のため、各市町村の観光パンフレット等の寄贈を依頼。
 - ・県や市町村の行政機関に、提供可能な行政文書等の資料の寄贈を依頼。
 - ・デジタル情報の収集と保存のほか、先行事例等の情報を収集。
- ③貴重資料等のデジタル化**
 - ・県立図書館が所蔵する「田岡典夫文庫」等の資料116点のデジタル化に着手した。
 - ・市民図書館が所蔵する『燧袋』4点、中城文庫1点、一宮村資料1点のデジタル撮影を行った。
 - ・「田村利親文庫」や「松野尾章行関係資料」(短冊分)等の目録作成に着手した。
 - ・ニーズの高い「武吉孝夫写真文庫」(仮)等の未整理資料や新規に受け入れた資料の目録をデータ化した。
- ④デジタル化された貴重資料の提供**
 - ・収蔵品検索データベースとNDLサーチ(国立国会図書館)との連携に必要な作業を行った。
 - ・展示室にて貴重資料の複製パネル展示を実施(R5. 7/27~8/31)。
 - ・牧野富太郎に関する貴重資料のデジタル画像を使用してパネルを作成し、NHK朝の連続テレビ小説「らんまん」関連の展示を行った。
 - ・完成した『順水日記巻之一(卑家月書外之部一)』の翻刻文の公開に向けて作業を開始した。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

- ①高知県にとって必要な資料の収集**
 - 県民・市民から提供のあった貴重な資料を「こうちミュージアムネットワーク」を通じて保存し、受入先を検討することで資料の散逸を防いだ。
 - 県内の文化施設などは、収蔵スペースに余裕がないことやマンパワーが十分でないことなどから、貴重な資料の受入れには限界がある。
- ②図書以外の資料の収集**
 - 県内市町村の紹介展示を行うことで、市町村の情報を発信するとともに、各市町村の資料の収集が進んだ。
 - ボーン・デジタルの資料の収集・提供について方針等が定まっておらず、今後検討を行っていく必要がある。
- ③貴重資料等のデジタル化**
 - 「田村利親文庫」24点の目録データが完成した。今後、ウェブ・サイトでの公開に向けて作業を進める。
 - デジタル化した資料の公開に向けて、メタ・データの整備等を進める必要がある。
 - 写真の画像公開にあたり、肖像権に関するルールづくりが必要。
 - 未整理資料のうち、寄贈の経緯等が不明な資料の取扱いについての検討が必要。
- ④デジタル化された貴重資料の提供**
 - 収蔵品検索データベースとNDLサーチとの連携が完了し、8月28日から提供を開始した。
 - デジタル画像を使用したパネルの展示により、当館の貴重資料保存の取組をPRできた。



県内市町村紹介展示

今後の取組

- ①・「こうちミュージアムネットワーク」と連携した、小規模館や個人宅での原本保存の支援。
- ②・市町村の紹介展示を継続的に実施していく。
・ボーン・デジタルの資料の収集・提供方法についての検討に際して、県立公文書館との協議なども行っていく。
- ③・デジタル化した「松野尾章行関係資料」の短冊資料の目録データや、新たに購入した田村利親関係資料の目録データを作成する。
・「田岡典夫文庫」の資料をデジタル化する。
・若尾家資料(若尾文庫関連)を整理する。
・引き続き、「武吉孝夫写真文庫」を整理する。
- ④・収蔵品検索データベースとジャパンサーチの連携に向けて作業を進める。
・『順水日記巻之一』翻刻文の「高知県立図書館デジタル・ギャラリー」での公開に向けて、引き続き作業を進める。

主な連携先

こうちミュージアムネットワーク

特記事項など

- ・県史編さん事業への協力。
- ・令和5年度高知県観光博覧会「牧野博士の新休日」への協力。

3-【1】児童サービス

概要

○子どもたちの心や成長に寄り添い、豊かな読書経験を培う手助けをするとともに、生涯学習の基礎となる情報リテラシーの向上を図ります。
○子育てに関わる大人や、子どもの読書活動を支える大人に対する支援を行います。

サービス指標

こどもカウンターの
レファレンス件数

R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標
1,567件	7,900件

主な取組 (R5. 4/1~R5. 8/31)

- ①情報リテラシーの学習機会の提供**
 - ・県内の小学校による図書館見学を受入れ。
- ②子どもと本を結びつける活動の実施**
 - ・外国語で書かれた絵本に続き、児童書を3階「ことばと国際交流コーナー」から2階「こどもコーナー」へ移設。
 - ・常設展示「読み継がれた絵本」を拡充。
 - ・夏休み期間中に「夜のおはなし会」と題し、初めて夕方におはなし会を実施。(ボランティアとの共催)
 - ・おはなし会の会場を「こども読書コーナー」から「おはなしのへや」に変更。
 - ・市学校教育課と連携した「高知市学校図書館支援員研修会」で、当館のサービスについて説明。
 - ・高知市立学校職員用向け(高校は除く)の団体貸出の運用を開始。
- ③保護者やボランティア等への読み聞かせなどの普及**
 - ・高知学園短期大学の学生ボランティアによるおはなし会の開催、壁面飾りの作成等。
 - ・「ストーリーテリング勉強会」、「大人のためのおはなし会」を開催。
 - ・市子ども育成課主管の「親子絵本ふれあい事業」の本の配布場所として協力を継続。
- ④子育て支援に関連する資料や情報の提供**
 - ・「子育て応援コーナー」の場所を拡充。
 - ・子育て情報サイト「ぐるっとママ高知」に、「子育て応援コーナー」等の紹介記事を掲載。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

- ①情報リテラシーの学習機会の提供**
 - 図書館見学は、子どもが図書館に興味を持つ良い機会となり、家族にも図書館を知ってもらえきっかけとなった。
 - 図書館見学に来られない子どもたちが、自宅や学校からでも図書館の使い方を学べる機会を設ける必要がある。
- ②子どもと本を結びつける活動の実施**
 - 外国語で書かれた子ども向けの資料をこどもコーナーに集約することで、利便性の向上につながった。
 - 常設展示「読み継がれた絵本」の拡充により、長く読み継がれている良書と子どもたちが出会う機会を増やせた。
 - 「おはなしのへや」でおはなし会を行うことで、飛び込みの利用者が参加しやすくなり、おはなし会の参加者の増加、継続的な来館につなげることができた。
 - 「高知市学校図書館支援員研修会」をきっかけに、「選定支援コーナー」の利用が複数あった。
 - 業務の参考にする本を貸し出す学校教職員向けの団体貸出と、子どもたちが利用する本の学校向け団体貸出との違いを分かりやすく説明する必要がある。
- ③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及**
 - ボランティアの活動をきっかけとして、学生に図書館の利用を促すことができた。
 - 絵本の配布場所であることが来館のきっかけとなり、その後の図書館利用につながった。

④子育て支援に関連する資料や情報の提供

- 「子育て応援コーナー」が目につきやすくなり、利用増につながった。



子育て応援コーナー等を拡充



学生ボランティアによるおはなし会



子育て情報サイトへの紹介記事の掲載

今後の取組

- ① 図書館見学に来られない学校に対して、オンラインで図書館の使い方を学べる仕組みを検討する。
・共催イベントに合わせて、パスファインダーを作成する。
- ② 科学館と連携した子ども向け講演会を年明けに開催。
 - ・学校図書館支援員や担当職員に対して、選定支援コーナーのPRを行う。
 - ・学校教職員用団体貸出の活用を促す。
- ③ 高知学園短期大学の学生によるボランティア活動を継続して受け入れる。

主な連携先

高知こどもの図書館、市子ども育成課、高知県心の教育センター、高知市市民活動サポートセンター、ジョブカフェこうち、高知学園短期大学

特記事項など

- ・「高知県立文学館」「高知まんがBASE」「高知こどもの図書館」のコーナーを継続して設置し、周辺の文化施設の回遊に寄与。

3-【2】ティーンズ・サービス

概要

- ティーンズ世代の多様な興味・関心に応える本や学習内容を深めることができる本などを提供します。
- イベント・企画展示の実施やPR活動などにより、図書館利用のきっかけづくりと読書機会の創出に取り組みます。

サービス指標	R 5年度 (R5.8/31現在)	R 8年度目標
	ティーンズからの投稿件数	8件

主な取組 (R5.4/1~R5.8/31)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - ・「オーテピアティーンズ部」の自主企画であるリレー小説を継続(第3回)。
 - ・県立中村中・高校との連携展示(3/1-4/30)を行った。
- ②情報リテラシーの学習機会の提供
 - ・提供中のパスファインダーの内容を改訂した。
 - ・山田高校の生徒に図書館活用講座を実施した。内容は、図書館の活用や、MieNaの使い方の説明、館内見学ツアー、参考図書の提供など。
 - ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座を実施した。
- ③他機関と連携した取組の実施
 - ・令和5年度第1回教育支援センター連絡協議会で図書館の活用について情報提供を行った。
 - ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座で関連展示を行った。
- ④ブログ、SNSの活用
 - ・ティーンズ部員から投稿された本の紹介文やイラストをFacebook、Instagramに掲載した。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - 第3回リレー小説について、部員から「読む人によって解釈が分かれていくのが感じられてすごく面白い」等の感想が寄せられた。
 - ティーンズ部の活動を盛り上げるために、でき上がったリレー小説のティーンズ部員以外への公開について検討が必要。
- ②情報リテラシーの学習機会の提供
 - 図書館活用講座が、図書館の利用促進につながった。
 - MieNaの使い方の説明と館内見学ツアーが特に好評だった。令和6年度も実施予定。
 - 「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座では、ビジネスプランの作り方をはじめ、データベースを含む図書館資料の活用方法も紹介することで、高校生の将来に役立ち、図書館の利用につながるものとなった。
- ③他機関と連携した取組の実施
 - 多様な事情を抱えるティーンズに、図書館に親しみを感じてもらえるような工夫が必要。
- ④ブログ、SNSの活用
 - ティーンズ部員やティーンズ世代の利用者からの投稿を増やす工夫が必要。

今後の取組

- ① 9月に安芸高校、11月に高知国際高校、高知中央高校、1月に中村高校と連携展示を実施。
- 11月に全国高等学校ビブリオバトル2023高知県大会を実施。
- ② 高校訪問などの機会に、教職員や生徒向けの図書館活用講座についてPRを行う。
 - 9月に小学校高学年から高校生を対象とした情報リテラシー講座「真実はいつもひとつ？-データベースを使って新聞を読み比べてみよう-」を実施。
- ③ 不登校など多様な事情を抱えるティーンズに図書館サービスを届ける方法について、心の教育センターなどの関係機関に相談する。
- ④ 職場体験学習等で来館するティーンズにも寄稿を呼び掛けるなど、投稿の増加につながる方法を検討する。

主な連携先

高知県心の教育センター、高知市教育研究所、日本政策金融公庫

特記事項など

- ・支援協力担当、館長と2校の高校訪問に同行し、サービスの説明を行った。



山田高校の生徒への図書館活用講座



「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座

3-【3】多文化サービス

概要

- 日本語を学習するための資料のほか、地域で生活するための様々な情報や知識を、外国語や「やさしい日本語」で提供します。
- 異文化を知るきっかけや、多様化する県内在住の外国人の生活に役立つ情報を提供します。

サービス指標	R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標
	ブックリストやパスファインダーの提供数	21種

主な取組 (R5. 4/1~R5. 8/31)

- ①資料の収集・提供
 - ・関係機関と連携し、図書館の活用方法に関するチラシ等の配布や出前図書館を行い、資料の利用をPRした。(県文化国際課主催イベント「おしえて！世界の年中行事！」等)。
 - ・「姉妹・友好都市展示」の常設展示の実施。
- ②情報活用のサポート
 - ・在留外国人向け図書館活用講座や「やさしい日本語図書館ツアー」を実施。(高知県国際交流協会)
 - ・「高知県外国人材確保・活躍戦略」(以下「戦略」)に係る新規予算に基づき、情報提供を効果的に行うため、外国人材応援展示コーナー(仮称)を準備中。新規
- ③他機関等との連携
 - ・KIAセミナー受講者へのPR、高知工科大学留学生に向けたチラシ配布、メルマガ配信を実施。
 - ・国際交流員のおすすめ本を継続して展示。
 - ・市町村図書館等の支援用図書を集集。
- ④各種催しなどの実施
 - ・県文化国際課との共催事業「おしえて！世界の年中行事！」、7/15「多民族国家シンガポールの文化と見所」講座を実施。
 - ・子どもを対象に「HELLO WORLD 外国語のおはなし会」「English Nook」を継続して実施。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①資料の収集・提供
 - 関係機関からのレファレンスの増加、主催事業での図書館資料の活用など、PRの効果が現れてきている。
 - 外国語資料、特に、ベトナム語・インドネシア語の資料が不足しており、積極的な収集が必要。また、支援者や雇用者(事業主)が活用できる資料も充実を図る必要がある。
- ②情報活用のサポート
 - 日本語学習中の在留外国人に向けて、資料のPRや活用講座を実施し、利用登録や貸出しなどの図書館利用につなげることができた。
 - 在留外国人が必要とする情報が、館内で分野ごとに散在しており、探しにくい。
- ③他機関等との連携
 - 「戦略」への参画により、関係機関に図書館サービスを周知することができ、関係機関との協力体制も構築できた。
 - 在留外国人向け図書館サービスの認知度が低く、さらなるPRが必要。
 - 当館で実施したイベントが、市町村立図書館が多文化サービスに取り組むきっかけとなる事例があった。(国際交流員を紹介。当館のイベントで使用した展示物を利用して展示・講座等を実施。)
- ④各種催しなどの実施
 - 県国際交流員に団体貸出を初めて利用いただくなど、関係機関の図書館利用を促進することができた。また、国際交流員と共に出前図書館の資料を選定(発注)し、蔵書の充実を図ることができた。
 - 図書館には、情報資源を提供する場であることはもとより、多文化交流の場としても有効である点について、効果的なPRが求められる。今後、在留外国人と地域住民の相互理解に資する講座やイベント等に対するニーズの把握が必要。
 - イベント等の実施に際して、より多くの在留外国人に情報が届くような広報の工夫が必要。



在留外国人向け図書館活用講座



おしえて！世界の年中行事！
来場者：191名

今後の取組

- ① 紙と電子両方の資料の収集や展示を継続。
- ・多文化サービスの関係団体(学校/高知県国際交流協会/中小企業団体中央会)に対して、継続的にPRを実施。
- ② 在留外国人向け図書館活用講座を継続。
- ・利用しやすいコーナーづくり(3階コーナー内の棚差し追加等)や、サービスを知ってもらうためのPRを行う。
- ・外国人材応援展示(仮)コーナーの設置に向けて、10月中を目途に準備を進める。
- ③ 各種行事等を関係機関と連携して実施。
- 9/24「グローバルキャリアフェアin高知」
- 11/19「国際ふれあい広場2023」
- 2/3「三国志イベント(仮)」
- 子ども向けの各種おはなし会(偶数月)
- ・日本語学習、多文化理解に役立つセット資料について、市町村立図書館からの需要に合わせて拡充を図りながら利用を促進。
- ④ 9/3「世界の本の読書会(中国文学)」、11月「インドネシア語の音読教室」、1月多文化理解ワークショップを実施。

主な連携先

高知県国際交流協会(KIA)、県文化国際課、市総務課、高知県外国人生活相談センター(ココフォーレ)、JICA高知デスク

特記事項など

3-【4】図書館利用に障害のある人へのサービス

概要

- オーテピア高知声と点字の図書館と連携し、図書館利用に障害のある人に配慮したサービスを提供するとともに、サービスの積極的なPRを行います。
- 多様な資料やサービス、コミュニケーション手段により、ユニバーサル・デザインの考えに沿った利用しやすい環境を整えます。

サービス指標	R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標 (見直し前)
	宅配貸出サービスの利用件数	38件
対面音訳サービスの利用件数	437件	1,200件(780件)

主な取組 (R5. 4/1~R5. 8/31)

- ①バリアフリー資料の収集・提供**
 - ・春野高校に作製依頼したオリジナルの布絵本（視覚障害者や知的障害者が見たり触ったりして楽しむことができる、コットンやフェルトで作られた絵本）の展示を実施。
 - ・大活字本・布絵本のブックリストを更新。
- ②イベント**
 - ・聴覚障害者協会と協力し、7/30に「手話で楽しむおはなし会」を開催。
- ③対面音訳ボランティアの養成**
 - ・声と点字の図書館と連携し、8/5からボランティア養成講座を実施。7/16に「読みの調べ方講座」を実施。
 - ・市民図書館旭分館での対面音訳サービスを9/1から開始するための準備を進めた。
- ④サービス対象者への広報**
 - ・当館のSNSや庁内電子掲示板でサービスを紹介。
 - ・**手話による利用案内と紙芝居の読み聞かせの動画を公開。** 新規
 - ・支援協力担当と共に山田特別支援学校を訪問し、絵本の読み聞かせや図書館の仕事について紹介。
 - ・高知市立特別支援学校の見学を受入れ。
 - ・声と点字の図書館、ルミエールサロン、県障害福祉課等と連携したセミナー開催の協議。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①バリアフリー資料の収集・提供**
 - 春野高校作製の布絵本は『とさのにちよういち』や『よさこいきつけ』など、高知に関するものが多く、寄贈式の様子が地元新聞に取り上げられたため、多くの方に布絵本を知ってもらえる機会となった。
- ②イベント**
 - 手話で楽しむおはなし会：17名参加。県内の手話サークルの方が見学に来られ、「**地元の図書館と連携してバリアフリーサービスを進めていく予定があり、実際におはなし会を見て、たいへん参考になった**」との感想をいただいた。
- ③対面音訳ボランティアの養成**
 - 読みの調べ方講座：延べ12名参加。毎年度実施することにより、**ボランティア活動に必要な知識や技術向上の機会を提供。**
- ④サービス対象者への広報**
 - 手話による利用案内の動画公開は、**日本経済新聞、読売新聞に取り上げられ、多くの方にサービス内容をPRすることができた。**
 - 今後も、障害者やその支援者、関係機関等に情報を届けるため、多様な媒体での広報や訪問など、効果的なPR方法を考えていく必要がある。



展示「高知の魅力発信！～春野高校生徒作製 だれでも楽しめる布絵本～」



手話で楽しむおはなし会



読みの調べ方講座



手話による利用案内の動画
本（ほん）を借（か）りるためには、図書館（としょかん）のカードが必要（ひつよう）です。

今後の取組

- ①** ・バリアフリー資料の収集、展示を継続。
・ブックリストの作成、更新を継続。
・県障害福祉課・県聴覚障害者協会との連携展示。
- ②** ・9/23 読書バリアフリー研究会(主催：伊藤忠記念財団)。
※声と点字の図書館との共同事業。
・9/23 手話国際言語デーに関する県障害福祉課との共催イベント。
・11/12 バリアフリー映画会。
・1/28 手話で楽しむおはなし会。
- ③** ・12/10 対面音訳ボランティアスキルアップ研修。
- ④** ・市町村立図書館、特別支援学校等への訪問によるPRを継続。
・高知ふくし機器展、県療育福祉センター主催の研修にて出前図書館を実施。
・ルミエールオンラインサロンにてサービスを紹介（12～1月）。

主な連携先

県障害福祉課、県聴覚障害者協会、県療育福祉センター、ルミエールサロン、高知声と点字の図書館

特記事項など

- ・高知県読書バリアフリー計画の策定。



4-【1】市町村立図書館等への支援 (県立図書館機能)

概要

- 協力貸出等の物的支援や市町村職員を対象とした研修事業等の人的支援により、県全体の図書館サービスの充実と職員のスキル向上に取り組みます。
- 東部・中部・西部の各ブロックの担当職員を置き、課題解決支援サービスのノウハウを共有するなど、各市町村の状況等に応じた支援を行います。

サービス指標

協力貸出点数

R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標(見直し前)
16,216点	40,000点(35,000点)

主な取組 (R5. 4/1～R5. 8/31)

- ①巡回訪問や依頼訪問等による支援**
 - ・市町村立図書館等の運営を支援するため、相談が寄せられている図書館室などを訪問。
 - ・図書館振興計画の目標達成に向け、県生涯学習課と定期的な打ち合わせを実施。**新規**
- ②情報提供**
 - ・ブログやメールによる情報提供を強化。
 - ・巡回訪問時や研修時に当館のサービスを紹介。
 - ・「高知県内図書館協力マニュアル」を改定。
- ③研修の実施**
 - ・県内図書館等の職員のスキルアップ向上を目的とした図書館サービス研修(3回)、ブロック別研修会(3地区各1回)、どこでも研修(1回)を実施。
 - ・巡回訪問時に研修動画を紹介するなど、遠隔地等の職員の自己啓発を促進。
- ④課題解決支援サービス実施への協力**
 - ・物流システムの活用や協力レファレンス等により、県内図書館へ資料を提供。
 - ・各市町村の課題に応じて、情報・資料を提供。四万十市・四万十町 イベント実施にあたり関係機関の紹介等 中土佐町・芸西村・日高村等 日本語学習セットの提供
 - ・「戦略」に係る新規予算に基づき、市町村から要望のあった資料を収集。(日本語多読、日本語能力試験N2～N3資料の追加) **新規**
 - ・がん・認知症啓発に関する巡回展示を準備中。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①巡回訪問や依頼訪問等による支援**
 - 市町村立図書館等からの求めに応じて、逐次刊行物のデータ登録方法(土佐町)や電子書籍サービスに関する情報を提供することで、市町村の業務をサポートできた。また、巡回訪問を通して把握した市町村立図書館等の実態や課題等を、**県生涯学習課と共有するとともに、同行訪問により、所管行政へ働きかけを行った(土佐市)。**
 - 巡回訪問をより効果的なものとするため、利用の少ない図書館室等について、担当間での情報共有が必要。
- ②情報提供**
 - 機会を捉え、**適切な情報提供と提案を行うことで、セット貸出等の利用につながった。**
 - 市町村図書館等の職員に日頃からブログ等を見てもらうための工夫が必要。
- ③研修の実施**
 - 研修参加の申込み受付を電子化することで、業務の効率化を図ることができた。
 - 中堅研修では、参加者が勤務する図書館の統計データの分析や他館との比較を通して、**自館の現状を確認するとともに、地域課題に目を向ける機会の提供ができた。**
 - 今年度の研修で参加者から出された要望を踏まえて、次年度の研修計画を策定する必要がある。その際には、図書館同士の情報交換の機会となるように考慮する。
- ④課題解決支援サービス実施への協力**
 - 情報提供により、啓発展示の実施や新たなサービスの開始など、**取組の強化・創出につながった**(芸西村での日本語サロンに合わせた図書展示、中土佐町での介護職に従事する外国人への日本語学習資料の提供)。
 - 県内図書館等のモデルとなり得る市町村立図書館のサービス創出のためには、図書館職員だけでなく、行政職員の理解も必要。所管行政へのアプローチについて、県生涯学習課と引き続き協議する必要がある。
 - オーテピア高知図書館で事業を実施するだけでなく、県内図書館等との協働やノウハウの共有を意識して企画する必要がある。

今後の取組

- ① 県生涯学習課と取組方針や情報を共有する機会を継続して設ける。
- ・各市町村立図書館等の課題を踏まえたカレンダーを個別に作成する。
- ② 「県内公共図書館職員向けブログ」等での情報発信を継続する。
- ・県立図書館による様々な支援が一目で分かるように、市町村立図書館等職員向けのチラシを作成する。
- ③ 今年度の研修を円滑に実施するとともに、次年度に向け、市町村立図書館等の職員の状況を考慮しながら、研修計画を作成する。
- ・9/21、12月 サービス研修
- ・9/29 どこでも研修(梶原町)
- ・10/4 どこでも研修(佐川町)
- ・2～3月 ブロック別研修会
- ④ 課題に合わせた情報提供や資料提供を行う。特に、外国人材の確保・活躍に関する分野について、市町村立図書館等のニーズも考慮しながら、資料の充実を図る。
- ・県内図書館等の課題解決支援サービスの取組事例をまとめたチラシを作成。(図書館協会事業)

特記事項など

- ・図書購入費(新図書館支援)に基づき、香美市立図書館への資料面での支援を準備中。

4-【2】高知市全域サービスの拠点 (市民図書館機能)

概要

- オーテピア高知図書館(本館機能)と6つの分館、15の分室、2台の移動図書館が一体となり、高知市内全域で図書館サービスを展開します。
- 児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を支えられるように、高知市内の小・中学校、義務教育学校、特別支援学校との連携・協力を強化します。

サービス指標

	R 5年度 (R5. 8/31現在)	R 8年度目標 (見直し前)
分館・分室・移動図書館利用者数	121, 043人	31万人(28万)
分館・分室・移動図書館貸出点数	577, 466点	1, 363, 000点(1, 316, 000点)
市内小中学校等への団体貸出点数	3, 509点	11, 200点

主な取組 (R5. 4/1~R5. 8/31)

- ①学校図書館との連携**
 - ・高知市立学校教職員向け(高校は除く)の団体貸出を開始。 **新規**
 - ・学校図書館支援員研修(5/10:市学校教育課主催)で講義を実施。
 - ・学校図書館や各学級に対するセット貸出などの団体貸出を実施。
 - ・高知県書店商業組合と共催で児童図書優良図書展示会及び学校図書館支援員・司書教諭向け講演会(7/30~8/2)を開催。市学校教育課と連携して広報を実施。
- ②分館・分室、移動図書館の活性化**
 - ・2分室の「分館・分室カルテ」を作成・活用。分室職員と活性化案について協議し、できることから着手。(蔵書構成の検討、分室外での図書展示、団体への声かけ等) **新規**
 - ・各館室を巡る本館職員対象のシールラリーを実施。 **新規**
 - ・定期訪問の継続実施。
 - ・本館資料を使った各館室での展示(コテピア)を拡充。健康・安心・防災情報サービスに加え、**ビジネス支援サービスに関する展示を開始。** **新規**
 - ・分館・分室による取組発表を実施し、好事例を共有。
- ③接遇力や利用サービスの向上**
 - ・毎月の業務協議研修会で実施する基本業務研修の年間計画を策定。計画に基づき研修を実施。研修資料を共有し、レファレンスツールも整理して共有。
 - ・均一なサービスの実施に向けて、全体の業務マニュアルを改訂中。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

- ①学校図書館との連携**
 - 当館での学校図書館の利用登録・選定支援コーナーの利用につながっている。
 - 高知県電子図書館への登録により、状況に応じた媒体の選択が可能となり、読書環境の向上につながっている。併せて、学校図書館のデジタル環境が改善されるように、GIGAタブレット配備について教育委員会として対策を講じた。
 - 業務の参考にする本を貸し出す学校教職員向けの団体貸出と、子どもたちが利用する本の学校向け団体貸出との違いを分かりやすく説明する必要がある。
 - 学校図書館用のGIGAタブレットは学校の予備機を充てることとなっており、一時的に配備されない館が出てくる可能性がある。
 - 学校連携の進展には、校長の理解と教委事務局関係課との情報共有・連絡調整が重要。
- ②分館・分室、移動図書館の活性化**
 - 「分館・分室カルテ」の作成により、各館室の強みと弱みを明確にして、活性化のための具体的な取組を実施。改善策に対して良い反応があり、分室職員のモチベーションのアップにつながっている。
 - 訪問時に現状を把握し、提案や助言を行うことで、利用者が使いやすい環境を整えた。
 - 健康・安心・防災情報サービスやビジネス支援サービスに関する資料展示(コテピア)は、月に300冊を超える利用があるなど好評。
 - 分館・分室の相互交流が活性化し、良い部分を自館室に取り入れるなどの意識の変化や業務改善が行われ、図書館サービスの向上につながっている。
 - 分館・分室における団体貸出について、利用しやすい方法を検討する必要がある。
- ③接遇力や利用サービスの向上**
 - 分館・分室の職員の基本業務の習得につながった。また、調査能力の向上に資する環境を構築できた。
 - 分館・分室の職員が使いやすいようにマニュアルの改訂を進め、周知する必要がある。

今後の取組

- ① 10/24の学校図書館支援員研修(市学校教育課主催)では、主催課の希望により、GIGAタブレットを使った高知県電子図書館の使用についての講義を予定。
- ② シールラリーの対象者を拡充。(10月から分館・分室の職員を追加)
 - ・本館職員の訪問や毎月の業務協議研修会での分館・分室による取組発表を継続して実施。
 - ・カルテを活用して検討した活性化案の実行及び検証を随時行っていく。
 - ・2分室のカルテについて、各館室の参考になるように、業務協議研修会で共有(9月)。
 - ・視聴覚資料版コテピアの実施。
 - ・職員間の交流の機会を増やす取組を検討。

特記事項など

- ・高知市地域共生社会推進本部防災福祉部会(市の横断的な組織)の勉強会で図書館活用講座を実施(5月)。
- ・GIGAスクール構想推進事業で5分館にオンライン学習用のwi-fiルータを設置(7月)。



本館職員対象のシールラリー



分館・分室による取組発表



潮江分館の取組を参考に設置“コテピア”(御豊瀬分室)

4-【3】県立学校図書館等との連携・協力 (県立図書館機能)

概要

○生徒たちが読書を楽しみ、自ら必要な資料・情報を探し活用して学ぶ力を身につけるための支援を、生徒たちにとって身近な学校図書館と連携・協力して行います。
 ○カリキュラムや生徒のニーズに対応する資料の収集・提供等により、生徒の学びを支えとともに、教職員等に対する研修や講座等を実施します。

サービス指標

団体貸出点数

R5年度 (R5.8/31現在)

1,930点

R8年度目標 (見直し前)

10,000点(2,200点)

主な取組 (R5.4/1~R5.8/31)

- ①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力
 - ・「県立学校との連携・協力」に係る新規予算に基づき、デジタル、グリーン、グローバルの各分野の資料を収集。
 - ・**県高等学校課主催の情報科教育研修において、「情報」科に関する図書セットの団体貸出について説明。**
 - ・県高等学校課が実施した起業家教育プログラムに合わせて、ビジネス分野の資料を山田高校へ団体貸出。
 - ・高校生を対象とする高知工科大学の特別授業に合わせて、デジタル分野の資料を高知追手前高校へ団体貸出。
- ②学校や関係機関との連携の実施
 - ・4校と連携展示について協議。
 - ・県高等学校振興課主催の講演会「高知の教育の進む道」で出前図書館を実施。
 - ・訪問等の機会に、「高知県電子図書館」の利用登録と探究成果物の掲載について周知。
- ③図書館活用講座等の開催
 - ・**高知中央高校の生徒を対象にした医中誌webデータベース講座を実施。** 新規
 - ・山田高校グローバル探究科の生徒を対象にした図書館活用講座を実施。
- ④学校司書等の研修への協力
 - ・市町村立図書館等職員向けの図書館サービス研修、ブロック別研修会を学校司書に案内。
 - ・**産業教育研究会商業部会や情報科教育研修において、サービス説明を実施。** 新規

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力
 - 各校の取組や動向を把握して個別にアプローチすることで、学校が必要としている資料を提供できた。
 - 特定教科の悉皆研修において、図書セットの展示やサービスの説明を行うことにより、全校の教職員への広報ができた。**また、学校からの要望を聞くことができた。
 - 教科教育に役立つ電子書籍の充実を図る必要がある。
- ②学校や関係機関との連携の実施
 - 8月末に1校がパネル展を実施。9月以降、4校との連携展示を予定。各校の特色ある取組を来館者に提供することができ、学校のPRにつながっている。
 - 市町村立学校や私立学校も含めて、「高知県電子図書館」の利用登録が進んだ (R5年度県立学校新規登録16校1,990人。累計10,158人)。また、探究学習成果物133点を掲載した。
 - 「高知県電子図書館」の利用登録を行っていない学校に登録を促す必要がある。
- ③図書館活用講座等の開催
 - 教科教育に沿った実践的なデータベース講座を実施することができた。**
 - 図書館での情報の探し方や情報リテラシーに関する理解を広めることができた。また、探究テーマに関連する資料を講座で紹介することで、学校への貸出しにつながった。
 - モデル校において、専門学科の年間指導計画に沿った図書館活用講座を実施する必要がある。
- ④学校司書等の研修への協力
 - 研修に参加した学校司書から、「高知県電子図書館」への成果物の掲載について問い合わせが複数寄せられるなど、取組の周知が進んだ。
 - 学校司書以外の教職員に対して、サービスのさらなる説明が必要である。



③データベース講座 (高知中央高等学校看護科)

今後の取組

- ①学習に役立つ電子書籍の充実を図るため、次年度の予算要求を行う。
- ②県高等学校課と情報を共有しながら、未登録校へ訪問し、登録を促すとともに、端末を持参してデモンストレーションを行うなど、「高知県電子図書館」やKinoDenの活用方法を周知する。
- ③特色ある学科を有する学校を主な対象として、データベース講習会を企画し、学校訪問の際に提案する。
 ・学年ごとの年間指導計画に沿った図書館活用講座が実施できるように、モデル校の教職員と打ち合わせをしながらプログラムを作成する。
- ④県高等学校課等と連携し、教職員への研修等でサービスの説明を行う。また、利用実績のある学校を主な対象として、実習助手を通じて校内研修・講座等の実施を提案し、教職員へ働きかける。
 ・校内研修会等で教職員の自己啓発等に役立つ資料の貸出しができるように、学校図書館と協力して取り組む。

特記事項など

- ・高知警察署と共催で就職相談会を実施。

4-【4】大学等の教育・研究機関等との連携・協力

概要

○教育・研究機関に対して、当館の有する資料・情報を生かし、ニーズや必要性に応じて活動をサポートします。
 ○多くの人に利用されている当館の強みを生かした、イベント等の共催や、広報活動の支援などにより、相乗的な効果が発揮できるように積極的に連携を進めます。

主な取組 (R5.4/1~R5.8/31)

※個別サービスでの取組は各サービスのシート内に掲載

①大学等の教育研究機関との連携

- ・高知工科大学の留学生に向けたチラシ配布、メルマガ配信を実施。
- ・高知県立大学の授業の一環として、見学及び図書館の活用方法についての説明を実施。
- ・土佐リハビリテーションカレッジと連携講座や、学生対象の図書館活用講座を実施。
- ・高知リハビリテーション専門職大学と連続講座や連携展示を実施。

②出前図書館等での資料の紹介・提供

- ・連携講座の会場で図書館のサービスの説明や資料の貸出しを実施。

③アウトリーチ・サービスの実施

- ・高知リハビリテーション専門職大学と今後のさらなる連携に向けた意見交換を実施。

④学生ボランティア等との協働

- ・高知学園短期大学幼児保育学科「保育研究会」による読み聞かせや本の修理、壁面展示を実施。
- ・高知県立大学「オーテピアンズ」による当館SNSでの情報発信。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

①大学等の教育研究機関との連携

- 学生に対して、図書館の活用方法について伝えることができた。
- 継続的に連携事業を行うことで、各大学等の取組の周知や利用者への医療健康情報の提供に寄与した。
- 図書館活用講座の参加者が、講座受講後に利用カードの登録や電子図書館の利用申請を行うなど、その後の利用拡大につなげることができた。
- 連携先を拡げていく必要がある。

②出前図書館等での資料の紹介・提供

- 学生を対象にした図書館活用講座を継続的に実施することができ、取組が定着した。
- 講座会場での出前図書館の貸出しを増やす工夫が必要である。

③アウトリーチ・サービスの実施

- 連続講座の会場での出前図書館や連携展示の実施につながった。
- 大学の専門性を生かした連携のあり方について、踏み込んだ協議を要する。
- 新設大学へのアプローチが必要である。

④学生ボランティア等との協働

- 学生の専門知識や企画力を生かして、読み聞かせや本の修理、壁面展示等を行ってもらい、図書館サービスの充実につなげることができた。
- ボランティア活動を通じて、保育の現場で役立つスキルを身につける機会を提供できた。
- 継続的なボランティア活動のためには、身につけたスキルを蓄積し、継承できる仕組みや工夫が必要である。



高知リハビリテーション専門職大学との連携展示



高知学園短期大学「保育研究会」による「読み聞かせ」・「本の修理」



今後の取組

- ① 9月の「がん征圧月間」・「世界アルツハイマー月間」に合わせて、県内の大学・公共図書館等で巡回展示を実施。
 ・連携の実績がない大学等に対して、アウトリーチによる働きかけを行う。
- ② 本の貸出しにつながるよう、講座の内容に即したブックリストの作成等を検討する。
- ③ 各大学図書館を訪問し、各館の取組状況や意向等について情報収集・意見交換を行う。
 ・2024年開設予定の高知健康科学大学（仮称、現土佐リハビリテーションカレッジ）と今後の連携に向けた協議の機会を設ける。
- ④ 毎月一回、「保育研究会」による定例のボランティア活動を行うほか、引き続き、学生の専門性や企画力を生かした活動を提案する。
 ・当館主催のイベントの運営補助について、「オーテピアンズ」と協議する。

主な連携先

高知工科大学、高知リハビリテーション専門職大学、土佐リハビリテーションカレッジ、高知大学医学部、高知工業高等専門学校、高知学園短期大学

特記事項など

4-【5】中心市街地活性化への寄与・周辺施設との連携

概要

- オーテピア高知図書館の資料・情報、司書の専門性、利便性の高い立地といった資源を活用し、中心市街地の活性化に寄与します。
- 文化施設等の周辺施設と連携・協力し、各施設の強みや機能の充実・強化を図り、互いの施設の利用促進や情報発信等につなげます。

主な取組 (R5.4/1～R5.8/31)

- ①個店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供
 - ・商店経営の仕方、商品ディスプレイのノウハウなど、個店や商店街の振興全般に役立つ図書、雑誌等を収集・提供。
- ②観光情報の収集・発信
 - ・NHK朝の連続テレビ小説「らんまん」関連の展示を関係団体と連携しながら実施。
 - ・よさこい祭りに合わせて関連展示を実施。また、祭り開催期間中(休館日)は休憩場所等として1階エントランス及び4階休憩コーナーを開放した。
- ③商店街や日曜日等の情報発信
 - ・1階の日曜日PRポスターの掲示方法を見直した。
- ④商店街との協働
 - ・土曜夜市(7/1)に出店。
 - ・オーテピア5周年事業(川柳コンテスト)で協同組合帯屋町筋と連携。
- ⑤図書館サービスのPR
 - ・館長を含む複数名が協同組合帯屋町筋の通常総会懇親会(5/29)に参加し、関係の強化を図った。
 - ・協同組合帯屋町筋に「コトノハ」の配布協力を依頼。
- ⑥文化施設との連携
 - ・高知お城下文化施設の会総会(7/13)に出席。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供
 - 商店街振興に役立つ選書を継続して行ったことで、経営や販売に関する資料にアクセスしやすい書架になっている。
 - 継続的にニーズを把握していくため、イベント等の機会をとらえて商店街の方々と交流を続けていく必要がある。
- ②観光情報の収集・発信
 - 1階エントランスホールにて、関係団体と連携してよさこいや移住に関する展示を行い、PRにつなげることができた。
- ③商店街や日曜日等の情報発信
 - 館内での日曜市のポスターの掲示やパンフレットの配布により、日曜市のPRに寄与できた。また、設置の反響を関係課と共有することで、連携が深まった。
- ④商店街との協働
 - 土曜夜市は、ブースに1,000人以上の方が立ち寄り、人が途切れることなく長い列ができるほど盛況で、商店街の賑わいに寄与できた。また、オーテピアのロゴ入り景品などの配布により、これまで来館されなかった方にも当館のPRができた。
- ⑤図書館サービスのPR
 - 帯屋町商店街の関係者と定期的なつながりを持つことで、当館の取組のPRができた。
- ⑥文化施設との連携
 - 11月の『お城下文化の日』に向けて、企画等を考えていく必要がある。



「らんまん」関連展示の様子



ブースにたくさんの人が立ち寄る土曜夜市の様子

今後の取組

- ①・商店街の振興を意識した資料の収集・提供を継続。商店街の方々と交流を深め、資料のニーズを把握するとともに、ニーズに沿ったブックリストを作成して、配布する。
- ②・引き続き、展示などを通じて、観光情報を発信していく。
- ③・日曜日PRポスターを継続して掲示する。2月に、よさこい及び日曜日PRポスター関連の図書展示を館内で実施。
- ④・11月頃に、まちゼミに参加。
- ⑤・商店街の方々に向けた図書館サービスのPRの方法や実施時期について検討。
- ⑥・引き続き、文化施設との連携に取り組む。11月の『お城下文化の日』に向けて、準備や関係団体との連携を進める。

主な連携先

市文化振興課、市商業振興・外商支援課
協同組合帯屋町筋、高知商工会議所

特記事項など

市シェアサイクル「PiPPA」新ポート設置場所にオーテピア遊歩道の一部を提供(7/14)